

中小企業景況調査結果(平成31年1~3月期)

中小企業の業況は、わずかに低下状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業98社を対象に景況調査を実施し、このほど平成31年1~3月期実績と4~6月期見通しについての調査結果(回答数81社、回答率83%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲26%から▲27%と僅かに低下した。業種別にみると、製造業は▲29%から▲11%と上昇しており、来期は13%と大幅に上昇の見通しである。建設業は▲14%から0%と大幅に上昇し、来期も9%と上昇の見込みである。小売業は▲42%から変わらず、来期は▲27%と大きくマイナス幅縮小の見通しである。サービス業は▲14%から▲27%と低下しており、来期は▲30%と僅かに低下の見通しである。

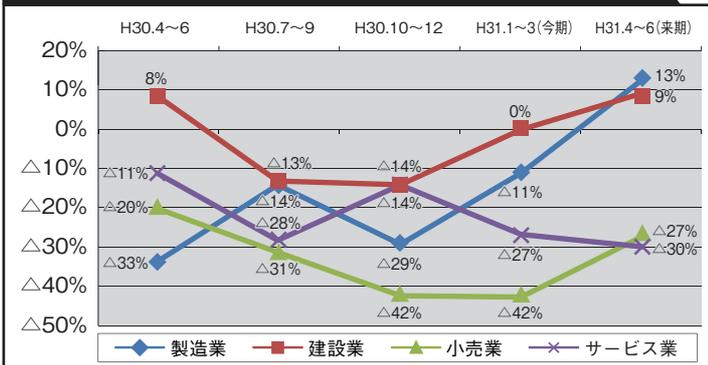
今回調査では、全業種で売上が低下傾向にあり、前回調査と正反対の結果となっている。仕入単価は業種によって状況は大きく異なっている。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の16%、来期設備投資を実施予定の企業は16%であった。経営上の問題点については、製造業では上位3位の項目は前回と同様であった。また、建設業では下請業者の確保難、小売業では販売単価の低下・上昇難、サービス業では店舗施設の狭隘・老朽化が上位にあがってきている。

◆業況DI値(今期の状況)

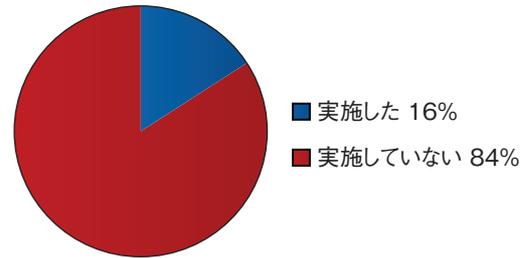
| | 業況判断 | 前回調査比 | 売上 | 前回調査比 | 資金繰り | 前回調査比 | 仕入単価 | 前回調査比 | 経常利益 | 前回調査比 | 従業員数 | 前回調査比 |
|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 全産業 | △27% | ↘ | △31% | ↘ | △13% | ↘ | 34% | → | △35% | ↘ | △4% | ↗ |
| 製造業 | △11% | ↗ | △20% | ↘ | △10% | ↘ | 90% | ↗ | △20% | ↗ | △11% | ↘ |
| 建設業 | 0% | ↗ | △25% | ↘ | 0% | ↗ | 42% | ↘ | △25% | ↘ | 0% | ↘ |
| 小売業 | △42% | → | △37% | ↘ | △22% | ↘ | 7% | ↗ | △48% | ↘ | 4% | ↗ |
| サービス業 | △27% | ↘ | △27% | ↘ | △7% | ↘ | 32% | ↘ | △27% | ↘ | △10% | ↗ |

◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)

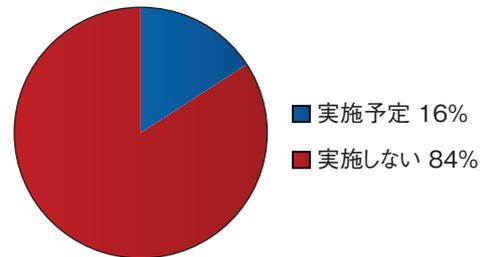


◆新規設備投資(今期実施・来期計画)

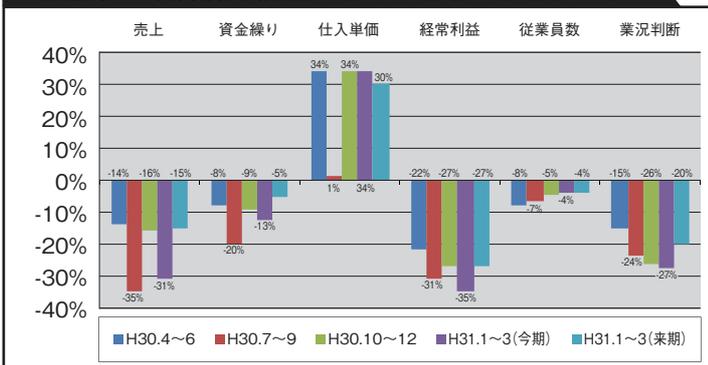
【今期設備投資】



【来期設備投資計画】



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

| | 製造業 | 建設業 | 小売業 | サービス業 |
|----|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|
| 1位 | 需要の停滞 28.6% | 材料価格の上昇 16.7% | 需要の停滞 19.7% | 利用者ニーズの変化への対応 16.2% |
| 2位 | 原材料価格の上昇 19.0% | 下請業者の確保難 13.3% | 消費者ニーズの変化への対応 14.1% | 需要の停滞 13.5% |
| 3位 | 生産設備の不足・老朽化 19.0% | 官公需要の停滞 13.3% | 販売単価の低下・上昇難 14.1% | 店舗施設の狭隘・老朽化 12.2% |

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。